余興

大島健吾

［登場人物］
男１、男２

明転すると、ＡＫＢ４８のような格好をした男１と男２。
音楽が流れる。二人で踊りだすが、男１は、動きにキレがある。男２は全くやる気がない。
男１は、ダンスを途中でやめる。

男１　　おい、どうしたんだよ。俺たちはこれから会社の同期の中田とカナちゃんの結婚披露宴の余興で、社長も楽しみにしている中、ばかばかしい踊りをしなきゃならないのに、調子が悪そうじゃないか。
男２　　いくら俺たちはこれから会社の同期の中田とカナちゃんの結婚披露宴の余興で、社長も楽しみにしている中、ばかばかしい踊りをしなきゃならないとはいってもさ、料理くらい食べたいよ。たいしておいしそうじゃないけどさ。

司会の声　　それでは、ここで、新婦の藤森カナ様の会社同期のご友人の皆様の余興です。

突然、ＡＫＢ４８の曲が流れる。拍手が沸く。披露宴会場が盛り上がっている。

男１　　かぶったー！
男２　　おい、このままじゃ社長の評価が下がるんじゃない？
男１　　よし、余興を変えよう。ええと・・・中田の好きなものは？
男２　　みこし。
男１　　みこし？
男２　　中田ってさ、大学時代、みこしをかつぐサークル入ってたでしょ？
男１　　ああ、あの目的がわかりにくいサークル。
男２　　そうそう、あの目的がわかりにくいサークル。
　　だから、曲にあわせて、中田の好きなみこしをかつぐ。

男１、男２、曲にあわせてみこしをかつぐふりをする。やがて、男１がやめて

男１　　まってまって
男２　　え？
男１　　ないよ、みこしが。
男２　　お、倒置法。
男１　　みこしはだめだよ。
　　・・・あ、カナちゃんの好きなものは？
男２　　えっと・・・カナちゃんけっこうエロネタが好きだよね。
　　だから、曲にあわせて服を脱ぐ。

男１、男２、曲にあわせて服を脱ごうとするが

男１　　だめだね
男２　　社長下ネタ嫌いだしね。
男１　　それじゃだめだな。
　　・・・あ、社長の好きなものは？
男２　　ええと、たしか、大の相撲好きだったような。
男１　　ああ、書類持っていくと、よく相撲の勝ったときのこれ（手の動き）やってるよな。
男２　　やってるやってる。じゃあさ、音楽に合わせて、相撲をとるのは？

曲にあわせて、男２が男１を思いっきり投げ飛ばし（曲のボリュームが下がる）

男１　　いたいよ・・・
男２　　（相撲で勝ったときの手の動き）
男１　　いらねえよ、それは。
男２　　お、また倒置法。
男１　　ほかに社長の好きなものは？
男２　　たしか、社長は、錦鯉の養殖が好きだとか。
　　だから・・・音楽に合わせて、錦鯉の養殖をやるのは？

（ボリュームが上がる）男１、男２錦鯉の養殖をやろうとして（すぐにボリュームが下がる）

男１　　だめだね
男２　　うん、だめだね。
男１　　ほかに、社長の好きなものはないのか？
男２　　というか、これは、中田とカナちゃんの結婚式だろ！
　　これじゃ、社長のよいしょじゃねえか。
男１　　社長のよいしょなんだよ。
男２　　社長のよいしょか。
男１　　社長のよいしょだ。
男２　　社長のよいしょなんだな。・・・わかった。
　　社長、確か、高知県に古くからつたわる闘犬が三度のめしより好きだとか。
男１　　ああ、あの、土佐犬を闘わせるっていう。

男１、男２、曲にあわせて闘犬をやってみる。すぐに

男１　　だめだね
男２　　（相撲の勝ったときの手の動き）
男１　　やらねえよ、犬は。
男２　　また倒置法・・・
男１　　よし、こうなったら手紙にしよう。感動的な手紙で、盛り上げよう。
　　社長、そういうお涙頂戴好きだろ。
男２　　えーそれは

突如、とても感動的な曲が流れる。

司会　　それでは、ここで、新婦ご友人の皆様から、お祝いのお手紙の朗読がございます。

男２　　またかぶった！　・・・　カナちゃん感動して泣いてる！　　社長まで！
　　もう…死のう。
男１　　あきらめるな！　大丈夫だ。
　　よし、俺たちは、中田の友人として、感動的なスピーチをやろう。
男２　　わかんねえよ、スピーチなんて
男１　　いいよ、もう、今のお前の思いをぶつけろ！
男２　　わかったよ。思いをぶつければいいんだな。
　　・・・カナちゃん、本当におめでとう。
　　明日からは、中田と結婚して、中田カナになるんだね、上から読んでも下から読んでも、中田カナだね。
　　中田、カナちゃんは、本当に素敵な女性だ。
　　それは、俺が、一番よくわかってる。
　　カナちゃんは、一緒に銭湯に行くと、俺が出るまでまっていてくれる。
　　とても優しい女性だ。
　　でも、正直、料理は微妙だ。
　　なんにでもゆず胡椒をいれるのは、ちょっとどうかしてる。
　　だから、料理は、中田も手伝ってやってくれ。
　　カナちゃんは、朝異常に弱い。
　　特に、変な起こし方をするとすごいことに
男１　　もういい！　もういいよ！
男２　　おれ、カナちゃんとつきあってたんだ…
男１　　わかったよ。だめだ。お前がやってくれよ。
男１　　…わかった。
　　カナちゃん、本当におめでとう。
　　明日からは、中田と結婚して、中田カナになるんだね、上から読んでも下から読んでも、中田カナだね。
　　カナちゃん、中田は、本当に素敵な男性だ。
　　それは、俺が、一番よくわかってる。
　　中田は、おれと飯を食いに行くとき、いつも車道側をあるく。
　　なんだか、胸がきゅんとする。
　　中田は、すげー、部屋が汚い。いつもは、俺が下着をたたんだりしてやっていたが、これからは、カナちゃんがたのむ。
　　中田は、この前俺がよいつぶれたとき、ブルゾンを肩にかけてくれた。
　　おれは、中田のにおいを感じてそれはもう
男２　　もういい！　　もういいよ！
男１　　おれ、中田が好きだったんだ・・・
男２　　わかったよ。
男１　　おれさ、お祝いのことばいえないよ。
男２　　いえるよ！　　がんばれよ！　　つらいけど、精一杯祝おうよ

ＡＫＢ４８の曲が流れる。二人顔を見合わせ、意を決し、

男１、男２　わっしょいわっしょいわっしょい